

## 賛助会員

- 北海道栽培漁業振興公社 (060-0003 北海道札幌市中央区北3条西7丁目北海道第二水産ビル4階)  
阿寒観光汽船 株式会社 (085-0463 北海道阿寒郡阿寒町字阿寒湖畔)  
全国海苔貝類漁業協同組合連合会 (108-0074 東京都港区高輪 2 - 16 - 5)  
有限会社 浜野顕微鏡 (113-0033 東京都文京区本郷 5 - 25 - 18)  
株式会社 ヤクルト本社研究所 (186-8650 東京都国立市谷保 1769)  
神協産業 株式会社 (742-1502 山口県熊毛郡田布施町波野 962 - 1)  
理研食品 株式会社 (985-8540 宮城県多賀城市宮内 2 - 5 - 60)  
マイクロアルジェコーポレーション (MAC) (104-0061 東京都中央区銀座 2 - 6 - 5)  
(株) ハクジュ・ライフサイエンス (173-0014 東京都板橋区大山東町 32 - 17)  
(有) 祐千堂葛西 (038-3662 青森県北津軽郡板柳町大字板柳字土井 38 - 10)  
株式会社 ナボカルコスメティックス (151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 5 - 29 - 7)  
日本製薬 株式会社 ライフテック部 (598-8558 大阪府泉佐野市住吉町 26)  
共和コンクリート工業株式会社 (〒060-0808 札幌市北区北8条西3丁目28 札幌エルプラザ11階)

### 海産微細藻類用培地

#### <特徴>

- ◎ 多様な、微細藻類に使用できる。
- ◎ 手軽に使用できるので、時間と、労力の節約。
- ◎ 安定した性能。
- ◎ 高い増殖性能。

#### 海産微細藻類用 ダイ IMK培地

- ・ 100L用×10 コード：398-01333
- ・ 1000L用×1 コード：392-01331

#### 海産微細藻類用 IMK培地添加人工海水 ダイ IMK-SP培地

- ・ 1L用×10 コード：399-01341

#### 海産微細藻類培養 ダイ人工海水SP

- ・ 1L用×10 コード：395-01343

「多くの微細藻類に共通して使える培地が市販されていない。」  
という声にお答えして、“株式会社 海洋バイオテクノロジー研究所”  
により、研究開発された培地です。

又、人工海水は海水 SP の成分が自然に近い形で混合されており、  
精製水に溶かすだけで海水として手軽に使用できます。

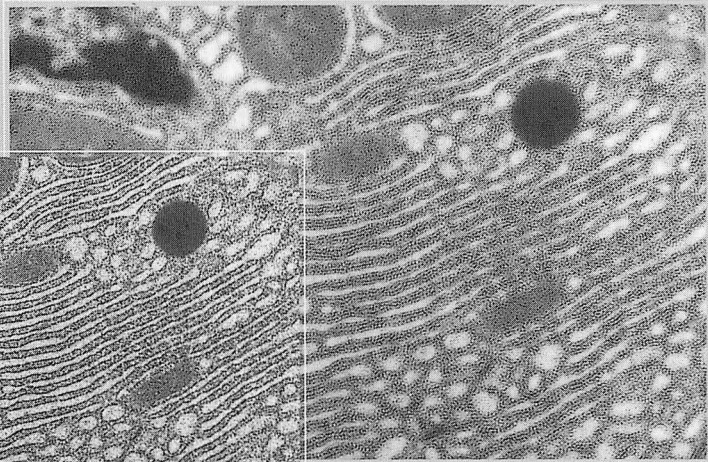
※人工海水 SP は千寿製薬株式会社の技術提携商品です。

製造 ●日本製薬株式会社 ライフテック部  
大阪府泉佐野市住吉町 26 番  
〒598-0061 TEL 0724-69-4622  
東京都千代田区東神田一丁目 9 番 8 号  
〒101-0031 TEL 03-3869-9236

販売 ●和光純薬工業株式会社  
大阪市中央区道修町三丁目 1 番 2 号  
〒541-0045 TEL 06-6203-3741  
東京都中央区日本橋四丁目 5 番 13 号  
〒103-0023 TEL 03-3270-8571

# HITACHI

オートフォーカスOFF



オートフォーカスON



## すっきり画像をすべてのユーザーに—— 高速オートフォーカス

### 特長

- 1 高速オートフォーカス機能を搭載し、0.9秒で焦点合わせが可能
- 2 TVカメラを標準装備し、明るい部屋で試料の視野探し撮影が可能
- 3 PC制御、GUI採用により、容易な操作
- 4 ネットワーク対応でリモート操作が可能 (オプション)

### 仕様

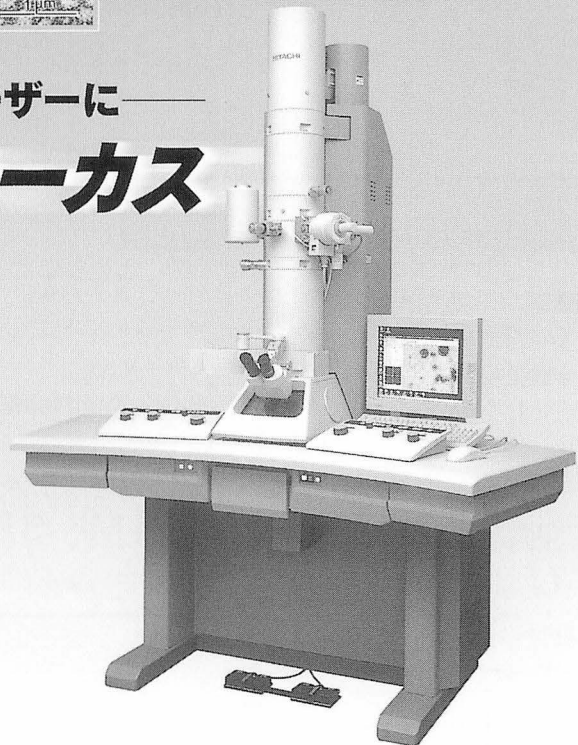
分解能：0.204nm(格子像)、0.36nm(粒子像)  
試料ステージ：高精度ハイバーステージ  
加速電圧：40~120kV  
倍率：Low Magモード×50~×1,000  
Zoomモード×700~600,000

株式会社 日立ハイテクノロジーズ

本社 〒105-8717 東京都港区西新橋一丁目24番14号  
電話ダイヤルイン(03)3504-7211

事業所 北海道(札幌) (011)221-7241 関西(大阪) (06)4807-2551  
東北(仙台) (022)264-2211 京都(京都) (075)241-1591  
筑波(土浦) (0298)25-4911 四国(高松) (0878)62-3391  
横浜(横浜) (045)451-5151 中国(広島) (082)221-4514  
中部(名古屋) (052)583-5851 九州(福岡) (092)721-3501  
北陸(金沢) (0762)63-3490

インターネットホームページ <http://www.hitachi-hitec.com/science/>



## 日立電子顕微鏡

# H-7600

新刊

# 淡水珪藻生態図鑑

群集解析に基づく汚濁指数 DA<sub>Ipo</sub>, pH 耐性能

渡辺 仁治 編著 浅井一視・大塚泰介 著 B5 判上製・総頁 784 頁・定価 34650 円  
辻 彰洋・伯耆晶子

日本のみならず世界各地から約 1500 のサンプルを採集。膨大なサンプルの生態情報を処理検討し、約 1000 種の珪藻についてその結果を分かり易くまとめる。生態情報の妥当性を期するため、すべてのサンプルを統一条件下で採集し、好清水か好汚濁か＝きれいな水を好むのか、汚れた水を好むのか等を判断する環境指標としての珪藻群集の適性を、多くの図版で具体的に示す。

総論 珪藻研究の歴史／環境指標としての珪藻群集／湖沼、河川共通の水質汚濁指数 DA<sub>Ipo</sub>／珪藻の生活様式／試料の採集／試料の処理と検鏡／形態（種の同定に関わる特性要素）写真編 I 中心目（Centrales）の分類 II 羽状目（Pennales）の分類 II A 無縦溝亜目（Araphidineae）の分類 II A ディアトマ科（Diatomaceae） II B 有縦溝亜目（Raphidineae）の分類 II B<sub>1</sub> ユーノチア科（Eunotiaceae） II B<sub>2</sub> アクナンテス科（Achnantheaceae） II B<sub>3</sub> ナビクラ科（Naviculaceae） II B<sub>4</sub> エピテミア科（Epithemiaceae） II B<sub>4</sub> ニチア科（Nitzschiaceae） II B<sub>5</sub> スリレラ科（Surirellaceae）学名総索引 事項索引

## 有用海藻誌

海藻の資源開発と利用に向けて

大野 正夫 著

B5 判・総頁 592 頁・定価 21000 円（本体 20000 円＋税 5%）

本書は海藻の生物学の解説にはじまり、応用の具体的事例を数多く紹介するとともに、今後期待される新分野、機能性成分についても現在得られている知見を盛り込む。生物学編、利用編、機能性成分編の 3 編 31 章から構成され、それぞれの分野で、長く研究にかかわってきた執筆者が、専門の分野を詳述する。

## 新日本海藻誌

一・日本産海藻類総覧

吉田 忠生 著

B5 判・総頁 1248 頁・定価 48300 円（本体 46000 円＋税 5%）

本書は古典的になった岡村金太郎の歴史的大著「日本海藻誌」(1936)を全面的に書き直したものである。「日本海藻誌」刊行以後の約 60 年間の研究の進歩を要約し、1997 年までの知見を盛り込んで、日本産として報告のある海藻（緑藻、褐藻、紅藻）約 1400 種について、形態的な特徴を現代の言葉で記載する。植物学・水産学の専門家のみならず、広く関係各方面に必携の書。

## 藻類多様性の生物学

千原 光雄 編著

B5 判・400 頁・定価 9450 円（本体 9000 円＋税 5%）

第 1 章 総論 第 2 章 藍色植物門 第 3 章 原核緑色植物門 第 4 章 灰色植物門 第 5 章 紅色植物門 第 6 章 クリプト植物門 第 7 章 渦鞭毛植物門 第 8 章 不等毛植物門 第 9 章 ハプト植物門 第 10 章 ユーグレナ植物門 第 11 章 クロララクニオン植物門 第 12 章 緑色植物門 第 13 章 緑色植物の新しい分類

## 淡水藻類入門

淡水藻類の形質・

種類・観察と研究

山岸 高旺 編著

B5 判・700 頁（口絵カラー含む）・定価 26250 円（本体 25000 円＋税 5%）

「日本淡水藻図鑑」の編者である著者がまとめる、初心者・入門者のための書。多種多様な藻類群を、平易な言葉で誰にも分かるよう、丁寧に解説する。I 編、II 編で形質と分類の概説を行い、III 編では各分野の専門家による具体的事例 20 編をあげ、実際にどのように観察・研究を進めたらよいかを理解できるように構成する。

### 小林珪藻図鑑

近刊

小林 弘 著  
南雲 保・出井雅彦・真山茂樹・長田敬五

### 藻類の生活史集成

堀 輝三 編

第 1 巻 緑色藻類 B5・448p(185 種) 定価 8400 円  
第 2 巻 褐藻・紅藻類 B5・424p(171 種) 定価 8400 円  
第 3 巻 単細胞性・鞭毛藻類 B5・400p(146 種) 定価 7350 円

### 日本の赤潮生物

福代・高野 共編

— 写真と解説 —

千原・松岡  
B5・430p・定価 13650 円

### 原生生物の世界

丸山 晃 著

細菌、藻類、菌類と原生動物の分類

丸山雪江 絵  
B5・440p・定価 29400 円

### 日本淡水藻図鑑

廣瀬弘幸・山岸高旺 編集

B5・960p・定価 39900 円

### 陸上植物の起源

渡邊 信 共訳

— 緑藻から緑色植物へ —

堀 輝三  
A5・376p・定価 5040 円

表示の価格は税込定価（本体価格＋税 5%）です。

〒112-0012 東京都文京区大塚 3-34-3  
TEL 03-3945-6781 FAX 03-3945-6782

内田老鶴園



---

## 学 会 出 版 物

---

下記の出版物をご希望の方に頒布いたしますので、学会事務局までお申し込み下さい。(価格は送料を含む)

1. 「藻類」バックナンバー 価格、各号、会員1,750円、非会員3,000円；30巻4号(創立30周年記念増大号、1-30巻索引付き)のみ会員5,000円、非会員7,000円；欠号1-2巻、4巻1,3号、5巻1,2号、6-9巻全号。「藻類」バックナンバーの特別セット販売に関しては本誌記事をご覧ください。
2. 「藻類」索引 1-10巻、価格、会員1,500円、非会員2,000円；「藻類」索引11-20巻、価格、会員2,000円、非会員3,000円、創立30周年記念「藻類」索引1-30巻、価格、会員3,000円、非会員4,000円。
3. 山田幸男先生追悼号 藻類25巻増補、1977、A5版、xxviii + 418頁。山田先生の遺影、経歴・業績一覧・追悼及び内外の藻類学者より寄稿された論文50編(英文26、和文24)を掲載。価格7,000円。
4. 日米科学セミナー記録 Contributions to the systematics of the benthic marine algae of the North Pacific. I.A.Abbot・黒木宗尚共編、1972、B5版、xiv + 280頁、6図版。昭和46年8月に札幌で行われた北太平洋産海藻に関する日米科学セミナーの記録で、20編の研究報告(英文)を掲載。価格4,000円。
5. 北海道周辺のコンブ類のと最近の増養殖学的研究 1977、B5版、65頁。昭和49年9月に札幌で行われた日本藻類学会主催「コンブに関する講演会」の記録。4論文と討論の要旨。価格1,000円。

2005年7月5日

2005年7月10日

© 2005 Japanese Society of Phycology

日 本 藻 類 学 会

編集兼発行者

前川行幸

〒514-8507 三重県津市上浜町1515

三重大学生物資源学部

Tel & Fax 059-231-9530

禁 転 載  
不 許 複 製

印刷所

株式会社東プリ

〒144-0052 大田区蒲田4-41-11

Tel 03-3732-4155

Fax 03-3730-8286

Printed by TOPRI

発行所

日本藻類学会

〒657-8501 神戸市灘区六甲台町1-1

神戸大学内海域環境教育研究センター

Tel 078-803-5781

Fax 078-803-5781

## 藻類

The Japanese Journal of Phycology (Sôru)

第53巻 第2号 2005年7月10日

## 目次

玉置 仁・高橋寛行・深谷惇志・福田民治・新井章吾・村岡大祐：宮城県雄勝湾におけるワカメ，ウニの分布と流動環境との関係	131
<b>短 報</b>	
島袋寛盛・野呂忠秀：鹿児島県近海に漂流するアカモクの枝内部に形成される雄性生殖器巢	137
中山恭彦・幸塚久典・新井章吾：漂着アマモに認められた藻食性魚類の採食痕	141
清水昭男・森島 輝・中山一郎：各種 DNA 結合性蛍光色素で染色したアマノリ葉状体の共焦点レーザー顕微鏡による観察	145
<b>藻場の景観模式図</b>	
寺脇利信・新井章吾：19. 新潟県柏崎市荒浜地先の消波潜堤	147
<b>藻類学最前線</b>	
瀧下清貴：トリパノゾーマ類も昔は藻類だった？	151
<b>第29回日本藻類学会大会開催記・参加記</b>	
中原紘之：日本藻類学会第29回大会を終えて	154
小野寺直子：大会参加記	155
坂山英俊：シンポジウム参加記	156
大江真司：エクスカージョン参加記	156
島袋寛盛：暖海性ホンダワラ属の分布変動に関わる第2回海藻同定ワークショップに参加して	159
英文誌 Phycological Research 53(1) 掲載論文と文要旨	161
学会録事	163
学会・シンポジウム情報	167
秋季藻類シンポジウム	
藻類談話会	
書評・新刊紹介	168
会員異動	169
会則	172
入会申込み	173
会費の自動振替導入に関するお知らせ	174